

京都府教育委員会委員長賞

大切なメッセージ

加佐中学校 二年 藤本 美咲

私は小学校一年生の秋、喘息になった。学校生活が始まって十ヶ月。小学一年生の私には医師の説明もよくわからなかったが、入院が決まった。

入院中はテレビを見ることや絵を描くことしかできなくて、友達とも会えない日々がたった。一週間ほどの入院とはいえ、入院生活は楽しくないし、一日の時間が長く感じる日々が続いた。

そんなある日、退屈しながらテレビを見ていたら、病室の扉が開いた。担任の先生が来てくれたのだ。最初は困惑したけれど、すごくうれしかった。そして、私に色紙をプレゼントして

くれた。開いてみると、クラスメイト一人一人からのメッセージが書いてあった。「早く帰って来てね。」「帰ってくるの、待ってるよ」。たくさんメッセージを見て嬉しくなった。

先生からみんなの様子として、私が入院したと聞いて泣いている子がいたと聞いた。私のことを大切に思い、心配してくれている子がいるとわかったこの瞬間は今でも忘れられない。

退院が決まった時は嬉しかった。喘息が落ち着いた喜び、学校に行ける喜び、友達に会える喜び、頭の中は喜びという感情しか浮かばなかった。

久しぶりに登校した日、私は病院で書いた手紙を一人一人に渡した。「ありがとう。」と言って受け取ってもらえた時、私は満面の笑顔だったと思う。嬉しかった。みんなからもらった色紙は私の人生を変えてくれた。一生の「宝物」になっている。

自分のことを大切に思ってくれている人がある。心配してくれている人がある。待ってくれている人がある。このことは大きな勇気や自信につながっている。

今、事情があつて罪を犯し、更生に向けて努力している人たちにとつてもこれは同じではないだろうか。待ってくれている人があると思うとがんばれるだろう。私もそうだった。また、非行に走ってしまった人、非行へ走ろうとしている人も、おそらく何らかの理由があるのだろう。でも、あなたのことを心配してくれている人があるはずだ。きっと、待っている人があるはずだ。もし、非行に走ってしまったような自分は信頼してもらえない、と思つていいるのなら、信頼してもらいたい、という気持ちをもつて行動すれば、必ず協力してくれる人が出てくるだろう。

非行や犯罪から更生しようとする人たちには、私たち周りの人間の協力も大切だ。様々な事情を抱えて生きる人があるのは当たり前である。私も悩みを持っている。もつと頭が良かったら…。もつと特技があつたら…。そう感じることも多々ある。失敗してしまうこともある。でも、そんな私を受け入れてくれる、友達という大切な人たちと支え合つて生きている。更生しようとする人たちを冷たい目で見るのではなく、温かく見守つて理解し合うことが大切だ。周りの人の思いやりが犯罪や非行を防ぎ、更生しようとする人の支えになると思う。そして、その思いを伝えることは大切だ。「帰ってくるの、待ってるよ。」「がんばつてね。」と。

